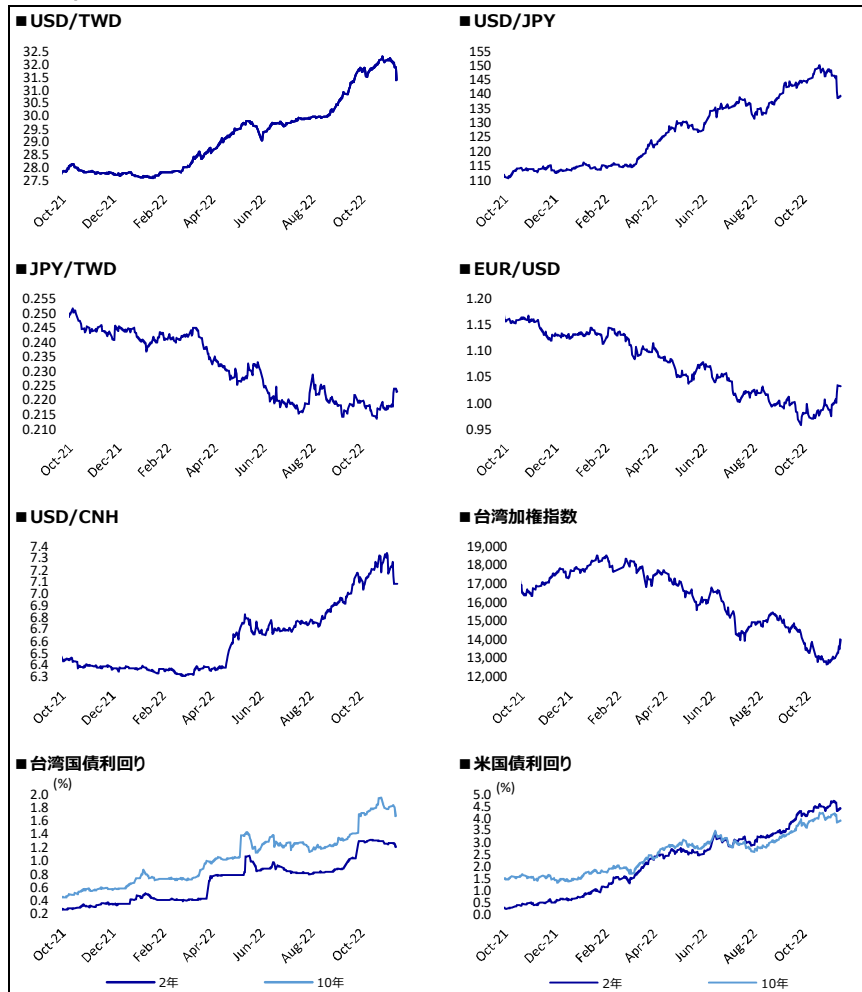


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは大幅下落。週初11/7は32.140でオープン後、前週末の米雇用統計の結果を受けて台湾株が上昇すると台湾ドル買いが優勢となり、32ちょうど近くまで下落。11/8は台湾株の上昇が続き、一時32を割り込む場面も見られたが、輸入企業のドル買いも入り32台に戻された。11/9は米中間選挙で「ねじれ」が起きるとの期待から増税等の法案が可決されにくくなると思惑から米株が買われたこともあり、台湾株も上昇するとドル台湾ドルは31.8台に下落。11/10は米CPIの発表を控えレンジでの推移となったが、11/11には米10月CPIが予想を下回ったことを受け、ドル全面安となる中、米株が大幅反発したこともあり、台湾株が買われると台湾ドル買いが優勢に。約1か月半ぶりに31.298まで下落し、最終的に先週比2.4%ドル安台湾ドル高の31.410で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は895.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は大幅下落。週初11/7は147.05でオープン後、前週末の米雇用統計の結果を受け、荒い値動きとなったが、米金利の上昇を受けて一時147.55まで上昇するもリスクオフのドル売りの流れもあり、146円台に戻された。11/8は米中間選挙が開始されたが、開票結果がすぐには分からないため様子見相場が続いたが、ポジション調整の動きもあり、145円台前半まで下落。11/9は米中間選挙における民主党の健闘や軟調な米10年債入札結果を受けた米金利上昇を背景にドル買い優勢となり、146円台前半に戻した。11/10は米10月CPIが公表され、総合、コアベースとも市場予想を下回ったことが強烈なドル売り材料となり、140円台まで下落。11/11にはドル売りが一服し142円台まで戻す場面も見られたが、ドル売りが再開すると一時138.46まで下落。最終的に先週比5.4%ドル安円高の138.76で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.900-31.600
先週は米10月CPIが予想以上に低下したことからドル全面安の流れとなっており、台湾に関しては、外国人投資家の資金の流入が大きく台湾ドル高に。米CPIは引き続き高い水準にあり、今週はFED高官の発言も複数予定されており、楽観的な見方へけん制する発言が出れば、株式市場の上昇も一旦ストップし、台湾ドル高も落ち着くであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：137.00-145.00
今週は複数のFED高官の発言が予定されている。米CPIは引き続き高い水準にあり、警戒感を示すのであれば、足許のドル安の流れは一旦落ち着くと見込む。

今週の予定

11/14 (MON)	
11/15 (TUE)	米10月PPI
11/16 (WED)	米10月小売売上高、米10月鉱工業生産
11/17 (THU)	米10月住宅着工・許可件数、米11月フィラデルフィア連銀景況指数
11/18 (FRI)	米10月中古住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。